

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会
令和7年度 第3回理事会 議事録

- 1.開催日時 令和7年7月31日 午後7:00～午後8:10
2.開催場所 ZOOM会議
3.理事総数 11名
4.出席者数 5名（書面表決書1名）
出席者（前河洋一、小林均、保原幸夫、山本正彦、清水泰生 敬称略）
書面表決書（鈴木良雄 敬称略）
5.議長選任 議長として前河洋一氏が選出された。

6.議事の経過の概要および議決の結果

第1号議案 前回理事会（7月11日開催分）議事録に関する件
保原氏から各理事に対し過日メールにて送信し、内容を確認していただいたが、特に疑義等
がなかったので承認されたものとする旨報告があった。

第2号議案 議事録署名人の指名について
議事録署名人として小林均氏と保原幸夫氏が選出された。

第3号議案 創立20周年記念事業について
実施要項を策定する上で必要な日程、場所、内容、予算等について、前回理事会に引き続き
意見交換を行った。

セミナー・シンポジウム単独では参加費2,000円で集客100人は厳しいので、他のイベン
トとの組み合わせを考える必要があるとの意見があったので、2009年～2019年の実績につ
いて、保原氏より説明してもらった。

<過去実績の概要は下記の通り>

2009年～2010年は第一部；ランニングクリニック、第二部；基調講演＋シンポジウム、
第三部；懇親会の三部制とし、参加費は第一部、第二部セットで3,000円、懇親会は3,000
円とした。2,009年の基調講演は有森裕子氏による「市民ランナーは世界のまちと人々のこ
ころをつなぐ」、2,010年の基調講演は谷川真理氏による「海外マラソンの魅力、東京マラソ
ンの魅力」でシンポジウム「海外マラソンをいかに楽しむか」と組み合わせた。参加者は
100名弱だった。

2011年～2013年は、午後のシンポジウムに先駆けて午前中に皇居周回コースでの駅伝大
会を「～世界の街に友好の輪を広げるための～国際交流駅伝 in Tokyo」と称して開催した。
各年の講演およびシンポジウム・テーマは下記の通り。

2011年；基調講演「東京マラソンのこれまでの歩みと今後の展開」

（帖佐寛章氏；東京マラソン財団理事長）

2012年；シンポジウム「大都市マラソンに期待すること」

2013年；レベル別マラソン完走教室（宇佐美先生、山西先生、前河先生）

2014年～2016も駅伝は開催したが、セミナーは国際交流をテーマにすべく、東京マラソンの前日開催とし、それぞれ単独開催となり、各年のセミナーのテーマは下記の通り。

2014年；基調講演「マラソン・ジャパンなどのスポーツ・ツーリズム推進について」

(八木和広；観光庁スポーツ観光推進室長)

パネルディスカッション「ランニング大会での日本流“おもてなし”を考える」

2015年；基調講演「取材者から見た“おもてなし”のランニング大会」

(増島みどり氏；スポーツライター)

パネルディスカッション「ランニング大会での日本流“おもてなし”を海外のランナーに伝えよう」

2016年～2017年には、「祝完走！国際交流パーティー」を“頑張った自分へのご褒美にランナーの国際交流夕食会と伝統芸能の夕べ“をキャッチフレーズに開催した。

2016年には青森の津軽三味線を2027年には岩手の金津流獅子躍りを楽しんでもらった。

2018年～2019年はセミナーの単独開催になり、内容は下記の通りだった。

2018年；基調講演1「“ケニア！彼らは何故速いのか”」

(忠鉢信一氏；朝日新聞編集委員、スポーツ担当)

基調講演2「世界の頂点を目指すトレーニングについて」

(ジャンブローネ氏；トスカーナキャンプ・ヘッドコーチ)

シンポジウム「“世界の頂点を目指すトレーニングについて”私はこう考える」

2019年；基調講演1「マラソンの歴史～過去・現在～」(山西理事長)

基調講演2「マラソンと私～ゴール∞無限～」(君原健二氏)

シンポジウム「マラソンの未来に思いを馳せる」

議論的になっている“集客”、“収益”についての検証結果は下記の通り。

セミナー+ランニングクリニックの場合は参加費3,000円で参加者80名程度だった。有森さん、谷川さんに10万円の謝礼を支払っても収支は+だった。

セミナー+駅伝の場合は駅伝参加チーム数が100チームを超した年は収益が20万円程度あったので収支上は問題なかったが、参加チーム数が50チームまで減少した年の収支はとんとんだった。

セミナー単独開催の場合は、参加費3,000円でも1,000円でも参加者は30～50名程度だったので大幅な赤字となった。

<意見交換概要は下記の通り>

過去の実績にもあるように、ランニングクリニック、駅伝大会、交流パーティと組み合わせることが集客効果を生み出しているが、大会前にコース攻略法セミナーなど参加者が興味を示すイベントを企画するのも効果的だろう。

近年、ランナーのニーズが変わってきているので、それを踏まえた内容にする必要があるのではないかと。例えば、ランニングウオッチのイノベーションなど。また、ランニングの質についての議論にどれくらい興味があるのかなどを検証する必要がある。

事業実施の第一目的は運用資金を賄うための収益を上げることである。幸い、2019年のメルボルンマラソン日本事務局事業が好調だったことで、コロナ対策として「持続化給付金」

「一時支援金」「月次支援金」「事業復活支援金」の名目で税込総額 500 万円を受給できたが、事業計画の立て直しを図らないとあと 5 年で内部留保がなくなってしまう。

会員を増やすことで会費収入を増やすことも運用資金を得ることにつながるの、会員獲得の機会とすることも事業実施の目的の一つである。ランニング学会大会と連携してのセミナー開催は収益にはつながらないが、会員募集チラシの配布やプログラムへの広告掲載等により会員増加の機会にはなると思う。会員増加は基盤強化につながる。

保原案では東京、札幌、大阪が開催地候補となっているが、札幌、大阪の場合講師およびスタッフの交通費と宿泊費が嵩んで収益が見込めないの、東京 1 箇所絞った方が良いのではという意見もあったが、参加費 2,000 円を 1,000 円にすると各回の集客目標 100 人を 50~100 人に設定するなどケーススタディを試みることになった。もともとの案は交通費、宿泊費は 30 万円と見積もっても、2,000 円×100 人×3 回で収入が 60 万円あれば 30 万円の収益が見込めるとしたが、判断基準は赤字にならなければ良いということにしたい。

なお、大阪開催にあたっては来年 3 月のランニング学会大会と連携して開催することを理事会に要請しようということになった。また、スポンサー探しも方策の一つだが、そのためには企業利益につながるような内容にする必要があるだろう。

実施時期については、必ずしも今年度中でなくても良いと思うので、じっくり内容を練り上げるためには時間を考慮した上で実施時期を決めることにする。また、開催にあたっては手伝ってくれる人を探したい。一緒に作り上げることによって当協会の活動に興味を持ってもらい、会員になってもらえば一石二鳥である。

集客目標を決めるにあたっては、各先生にお話ししていただきたい内容を提示した上で、関係者の参加見通しを伺うのが良いだろうということになった。ちなみに、山西先生の叙勲祝いパーティには、前橋のランニングクラブ、ランニング大学、ベアリスランニングクラブ、群馬大学卒業生などを中心に 80~90 人が参加したので、その人達に声かけをすれば 30~40 人の参加が見込まれる。それぞれの先生の分も加えれば 100 人になるかも知れない。

いずれにしても、こういう内容でという各自の意見を前河理事長宛に 8 月 16 日(土)までに提示し、それに基づいてストーリー作りをまとめてもらった上で、次回理事会で議論することになった。

第 4 号議案

その他

■都民税（均等割）免除について

都民税（均等割）免除決定通知書を 7 月 28 日付で受領した。収益事業を再開しない限り、都民税は免除される。

■三菱UFJ 銀行口座変更手続きについて

理事長変更に伴う口座変更手続きの必要があるの、7 月 14 日(月)に千葉支店で手続きを完了した。

■次回理事会について

8 月 25 日(月)18 時~19 時に ZOOM 会議を開催する事になった。


本日の議論に基づいて、内容の確定に向けての話し合いを行うので、できるだけ多くの理事の参加をお願いしたい。


以上をもって議案全部の審議を終了したので、午後 8 時 10 分に議長は閉会を宣言し散会した。

上記の議決を明確にするため、議長及び議事録署名人において下記に署名・押印する。

令和 7 年 7 月 31 日

特定非営利活動法人 日本市民スポーツ海外交流協会

議長 前河 洋一 

議事録署名人 小林 均 

議事録署名人 保原 幸夫 